

外国株式と外国債券では違う？ 為替相場の影響

外国株式・外国債券への投資を考える場合、為替相場の動向が気になります。投資した時と比べ、円安(=外貨高)になれば為替差益が得られ、円高(=外貨安)になれば為替差損を被るからです。

為替リスクをヘッジ(回避)するタイプの投資信託やETF(上場投資信託)などもありますが、ヘッジコストがかかります。ヘッジコストは短期金利差を反映するので、例えば米国株式に投資して、米ドルに対する円高リスクをヘッジしようとする場合、日米の短期金利差相当分のコストがかかり、その分、収益が圧迫されます。

日本は今年3月、7月と利上げを決定し、米国は9月に利下げ、ユーロ圏も6月、9月と利下げしたので、以前より金利差は縮小していますが、それでもヘッジコストはかなりの負担となっています。現状では、ヘッジなしで投資することを基本としたほうが良いと考えます。

●外国株式は為替の影響は限定的

ヘッジなしで外国株式や外国債券に投資すると、円ベースの収益率は為替相場の影響をストレートに受けます。ただし、外国株式と外国債券では、為替相場が与える影響はかなり異なります。

図表1は、日本を除く先進国の株式市場全体の値動きを示す代表的な市場指数「MSCI コクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)」との連動を目指す「eMAXIS 先進国株式インデックス」の値動きです。三菱UFJアセットマネジメントの月次レポートによると、8月末現在で米国株式のウエイトが73.6%と極めて高くなっています(以下、英国、カナダ、フランス…と続く)。そこで、「米ドルの対円為替相場」の推移と合わせて、値動きを見てみましょう。「対円為替相場」は、数値が上昇して

いる時が円安、低下している時が円高を意味しています。

図表1を見ると、先進国株式にとって、為替相場の影響は限定的であることが理解できます。多少円高になっても、それ以上に株価の上昇率が大きければ、先進国株式は値上がりします。先進国株式や米国株式などに投資する場合は、為替の動きをそれほど気にする必要はなく、それよりも今後の株価動向についてよく考慮する必要があります。

●外国債券は為替の影響が大きい

図表2は、日本を除く世界主要国の国債市場全体の値動きを示す代表的な市場指数「FTSE 世界国債イン

デックス(除く日本、円換算ベース)」との連動を目指す「eMAXIS 先進国債券インデックス」の値動きです。月次レポートによると、8月末現在で米ドル建てのウエイトが47.2%、ユーロ建てが30.4%と高くなっています。そこで、米ドルとユーロの「対円為替相場」の推移と合わせて、値動きを示しています。

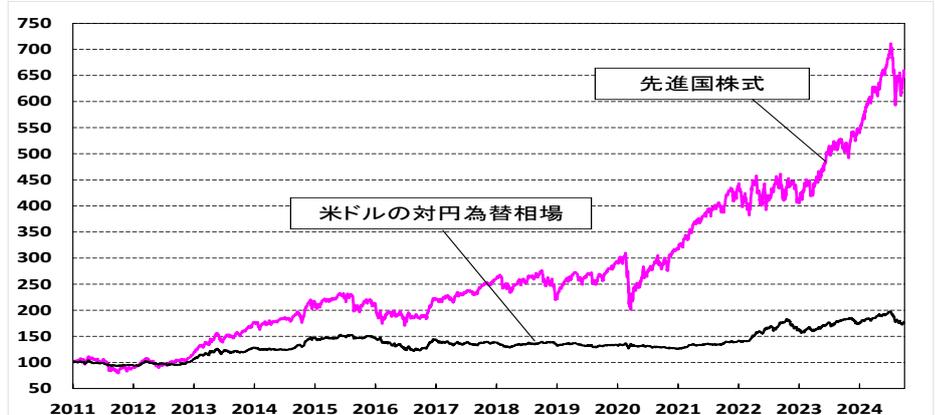
図表2を見ると、円安になれば、先進国債券は値上がりし、円高になれば基本的に値下がりしています。

債券価格の動きは株式と比べればかなり小さいため、為替相場の動きの影響が大きくなり、円ベースで見た外国債券の収益率は為替相場に大きく左右されます。このため、先進国債券などに投資する場合は、為替動向をどう判断するかが大事です。

(クルー 目黒政明)

【図表1】先進国株式と為替相場の推移(2011年1月4日~2024年9月30日)

※「先進国株式」は、三菱UFJアセットマネジメント「eMAXISシリーズ」の「MSCIコクサイ・インデックス」連動型インデックスファンドの値動き ※2011年1月4日の価格を100として指数化



【図表2】先進国債券と為替相場の推移(2011年1月4日~2024年9月30日)

※「先進国債券」は、三菱UFJアセットマネジメント「eMAXISシリーズ」の「FTSE世界国債インデックス」連動型インデックスファンドの値動き ※2011年1月4日の価格を100として指数化

